



ほつとするね  
緑の府中

# 指導室だより

第 76 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室

〒183-8703 府中市宮西町2-24

電話 042-335-4063



## 育てたい「慮る心」 おもんばか

府中市教育委員会  
教育部長兼指導室長 酒井 泰

決してモラル向上のための呼びかけではない。しかし、少し前に車内での携帯電話の利用の制限をアナウンスされたように、「お降りの際には、一声かけて」などと言われなければ、良好な人間関係が保てないような世の中は寂しい。

府中市教育委員会は、平成21年12月を「モラル向上月間」として子どもたちの健全育成を図るための特別の取組月間と位置付けた。このことを受け、各学校では日頃からの指導に加え、この期間に集中的に万引き防止を含む規範意識の向上を目指した指導を実施した。市立小・中学校の児童・生徒の代表が意見を出し合い、作成した万引き防止のための標語やメッセージを使った学級指導や府中警察署のスクールサポーターの方をゲストティチャーとして迎えた授業を実施するなど、各学校が工夫を凝らし積極的に取り組んだ。

例年、文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果が発表されるたびに、児童・生徒の「いじめ」「暴力行為」「不登校」など健全育成上の課題として捉えられる行為の数値の高さとその原因の深刻さが指摘される。子どもは、「いじめ」「万引き」「暴力行為」などをしてはいけ

ないことと分かっている。分かっているがやめられない。なかならない。この種の問題の解決が困難な理由がここにある。解決のために必要なことは、児童・生徒を含む社会全体の意識改革、行動規範の見直しではないかと思う。

モラルは教えられればすぐに身に付くというものではない。日々の生活の中でその意義を十分に理解し、実践することを積み重ねて初めて身に付くものである。「自分のことよりも他人のことを大切に思う」心をもった子どもは、他者との対応において自然と「すみません」と言葉が出たり、少なくとも言葉の代わりには軽く会釈をしたりする。丁寧な言葉かけや会釈があればトラブルはまず起こらないものである。時間はかかるかもしれないが、粘り強く人のことを「慮る」ことができる児童・生徒を育てていきたい。私にとっては、それが児童・生徒の健全育成のためのキーワードのように思えてならない。

最近、車内で「すみません」という言葉を耳にすることが少なくなると感じる。込んだ電車の中の奥から降りるとき、昔は「すみません」と一声かけてということが、誰から言われるまでもなく、日常的に行われていたように思う。しかし、今はどうだろうか。ただ、身体を押し、まるでどけと言わんばかりの行動である。押された方も気分が悪く、なんだという気持ちになってしまう。

私は、昨年のこのページで電車の中の乗客の行動で気になることについて書いた。

「すみません」という言葉は、謝罪の意味で使用する場合が多い。しかし、この言葉には「恐縮ですが、…をしてほしい」という依頼の意味もあることを忘れてはならない。この場合は、「誠に恐縮ですが、私は降りますので、少しづれて道を空けていただけませんか。」ということになる。自分の行動や利益が優先ではなく、自分のためにわざわざずれてもらう相手に申し訳なく思う気持ちで、「すみません」という言葉となつて出てくる。

またそんな時、「慮る」という言葉を思い浮かべることがある。「次々と思いつくこと。関連した事がらを考え合わせる」というこの言葉が意味することには、詰まるところ「相手の立場に立って考える」「相手の気持ちに思いをめぐらし、自分の行動をする」ということであると思う。

「すみません」という言葉を広辞苑で引くと、『済まない』の丁寧語、相手に悪く、自分の気

持ちが片づかない。』とある。確かにこの言葉は、謝罪の意味で使用する場合が多い。しかし、この言葉には「恐縮ですが、…をしてほしい」という依頼の意味もあることを忘れてはならない。この場合は、「誠に恐縮ですが、私は降りますので、少しづれて道を空けていただけませんか。」ということになる。自分の行動や利益が優先ではなく、自分のためにわざわざずれてもらう相手に申し訳なく思う気持ちで、「すみません」という言葉となつて出てくる。

またそんな時、「慮る」という言葉を思い浮かべることがある。「次々と思いつくこと。関連した事がらを考え合わせる」というこの言葉が意味することには、詰まるところ「相手の立場に立って考える」「相手の気持ちに思いをめぐらし、自分の行動をする」ということであると思う。

車内アナウンスは、単なるトラブル防止のための警告である。

「すみません」という言葉を広辞苑で引くと、『済まない』の丁寧語、相手に悪く、自分の気

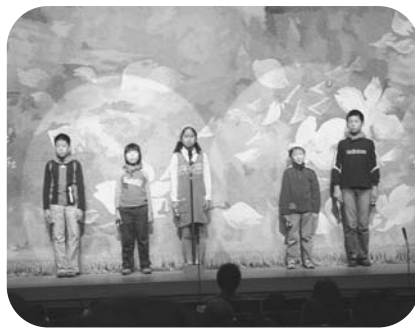
持ちが片づかない。』とある。確かにこの言葉は、謝罪の意味で使用する場合が多い。しかし、この言葉には「恐縮ですが、…をしてほしい」という依頼の意味もあることを忘れてはならない。この場合は、「誠に恐縮ですが、私は降りますので、少しづれて道を空けていただけませんか。」ということになる。自分の行動や利益が優先ではなく、自分のためにわざわざずれてもらう相手に申し訳なく思う気持ちで、「すみません」という言葉となつて出てくる。

またそんな時、「慮る」という言葉を思い浮かべることがある。「次々と思いつくこと。関連した事がらを考え合わせる」というこの言葉が意味することには、詰まるところ「相手の立場に立って考える」「相手の気持ちに思いをめぐらし、自分の行動をする」ということであると思う。

車内アナウンスは、単なるトラブル防止のための警告である。



第44回 特別支援学級連合学芸会  
 ちからを あわせて  
 たのしい がくげいかいを



はじめのことば



○府中第二小学校

毎週練習している和太鼓を発表するためにその技の習得はもろろのこと、「はっぴ」に着替えて帯を結ぶ練習を何度も繰り返し練習した。おかげで低学年と高学年の入れ替わりがスムーズにできた。

○府中第四小学校

ハンドベルだけでアンサンブルをする、延ばす音をキーボードでつける、これは主旋律でないパートがとても難しかった。同じ音、同じパートが同じタイミングで音を出せるようにたく



○府中第九小学校

九小は合奏・ボディーパーカッションに挑戦した。みんなでき

○府中第五小学校

曲が決まり、低・高学年に分かれた音楽の授業で、それぞれ担当する楽器を決め、ひらがな楽譜を読み、拍を数えながら練習した。そして全体で、他の音を聴きながら合わせる。気持ちも合わせ、仕上げ、大成功！



司会

ズムを合わせるのが大変だったが、「心を一つにして頑張ろう」を合い言葉に一生懸命練習し、当日は大成功することができた。

○小柳小学校

「枯れ葉」と「ソレアード」に取り組んだ。行事やインフルエンザで学級閉鎖、演奏の要の児童の転校などもあり、再度のパート変更をして臨んだ。音のつなぎを大切にして演奏することができた。



○南町小学校

動物が大好きな子どもたちは、動物園に行って、たくさん動物を見た時の驚きや喜びを舞台上で発表した。動物について調べ

たことをまとめたり、巨大な象の張り子を作ったりと、みんなで協力して取り組んだ。

◆午後の部

昼食・休憩をはさんで午後からは、中学生の部が始まった。

○府中第一中学校

毎年、連合学芸会では劇を演じているK組。今年は「モモと時間どろぼう」に取り組んだ。一人一人の生徒にスポットをあてるよう、台本・セリフ作りに工夫した。風邪の影響で全員揃っての練習ができなかったが、生徒は臨機応変によく対応していた。

○府中第二中学校

二中では、合奏・合唱・トロンチャイムとハンドベルを演奏した。ハンドベルは音がきれいにつながるように演奏した。曲紹介の朗読は、皆の気持ちを一つにして言葉を伝えられるよう頑張った。

○府中第四中学校

今年の合奏「イパネマの娘」は、ボサノバの名曲。独特なりズムなので総勢28名で音を合わせるのに学芸会一週間前まで苦労した。本番は生徒の心が一つになりとても良い演奏ができた。各学級で力を合わせて一生懸命に練習してきた成果が十分に発揮された、心に残る連合学芸会であった。



府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

考えを深め

表現でできる児童の育成

～書く活動の指導の工夫を通して～

府中市立府中第五小学校  
研究主任 柴田 紀子

1 研究主題について

本校ではこれまで人権尊重教

育の視点から、一人一人の個性

を生かし、多様なものの見方や

考え方、自他を大切にする児童

の育成を目指してきた。さらに、

英語活動や国語科を通して、コ

ミュニケーション能力の素地と

なる言語力の育成に取り組ん

できた。こうした本校のこれまで

の研究経過や児童の実態、新学

習指導要領の改訂などから、平

成20・21年度は標記のような研

夫を行う。

①「考えを深める」

②「書く力を高める」

③「評価力をつける」

③ 発達段階に応じた力の明確

化を図る。

四分科会に分かれ、目指す児

童像を発達段階に合わせて決め

身に付けさせたい力を明確にし

た。

①低学年分科会

「書くことで自分の考えをもち、

順序良く表現できる児童」

②中学年分科会

「書くことで自分の考えを明らか

にし、中心を押さえて表現

できる児童」

③高学年分科会

「書くことで自分の考えを見つ

め直し、効果的に表現できる

児童」

④仲よし学級分科会

「書くことで自分の経験や考え

を

をまとめ、正しく適切に相手

に伝えられる児童」

3 「あいの時間」の

取り組み

考えや思いをもつことによ

って、書く目的や相手意識が明確

になる。書く力を高めることに

よって、どのように書いていたらよ

いのかが明確になる。どちらも

互いに関係し合って、考えを深

めることができる。

考えや思いをもてるようにな

るために「考えを深めるための

指導の工夫」を、効果的に表現

できるようなるために「書く

力を高めるための指導の工夫」

を、考えを一層深めたり、より

適切に表現したりすることがで

きるように、「評価力をつけるた

めの指導の工夫」を追究した。

そして、授業の中で、「あいの

時

間」という交流する学習活動

を設定して、一人一人の学びが

得られるようにした。

あいの時間とは尋ね合い、話

し合い、聞き合い、読み合い等

で交流し「学び合い」をする

『あい』である。さらに、その

学び合ったことを自分の学習に

生かすことの『い』（「**い**」

の『い』）でもある。

学び合う人数は、ペア・グルー

プ・学級全体など様々。一人一

人に効果的な学びになるため

は、その時間に何を学ばせるの

かという「明確なねらい」と

「ねらいに合った方法と形態」

を検討する必要がある。「ねら

い」によって、一単位時間のど

こに「あいの時間」を位置付け

ると有効であるかが決まる。

書くことのプロセスは「課題

設定」「取材」「構成」「記述

」「推敲」「交流」とあるが、「交

流」を単元の終末で、書き終え

た文章を読み合うだけでなく、

途中のプロセスでも「あいの時

間」として設定することによ

って、考えを深めたり、表現の参

考にさせたりすることができる。

4 成果と課題

(1) あいの時間の設定により、

指導者は、指導のねらいを明確

にしなければならぬことを再

認識した。児童は、友達との交

流によって自分の考えが広が

る

たり深まったりしたことから、

学び合うよさを味わうことが

できた。さらに、多様な場面で

あいの時間を設定することで、学

び合う活動の定着を図りたい。

(2) 書く力を高めるために、あ

いの時間を設定したり、モデル

文を提示したりした。それによ

って、書き方が分からない児

童や苦手な児童への支援の手

だてになった。今後、つきたい

力に合わせて、どのようなモデ

ル文がよいかを検討する必要が

ある。

(3) 国語科の書くことを通して、

追究してきたことを他教科でも

生かして、さらに考える力を深

められるようにしたい。そして、

考えることの楽しさ・よさを味

わえる児童を育てていきたい。



グループでの「あいの時間」の学び合い



「あいの時間」での確かめ合い

わが校の特色ある教育 No. 41

# 合唱活動を通じた 教育目標の具現化

府中市立府中第一中学校

主幹教諭 山口 敦

本校では、学校の教育目標「はじめ」節度ある生活をする生徒、「やる気」深く考え、進んで行動する生徒、「思いやり」ひとや物を大切にする生徒を指して取り組んでいる。

この目標を達成するため、生徒が主体となり、生徒一人一人が可能性を追い求め、努力していくことができるような特色ある教育を行っている。

これらの具現に向けての取り組みは、指導と評価の一体化に基づく良質の授業の提供、教材ガイダンスの実施、生徒顕彰制度、青少対地区委員会との共催による駅伝大会等、学校すべての場で展開されている。その中

でも、合唱活動を通じた取り組みについて詳しく紹介する。

○合唱活動を通じた育成  
本校の指導の重点の中に「合唱活動を通して、心身ともに調和のとれた豊かな人間形成に役立てるとともに教育目標の具現化を図る」という項目がある。

3月に行われる伝統の合唱祭に向け、年間を通して合唱活動の充実を図っていくものである。

合唱活動を通して、

①学級や学年、全校の和を高める。②感動体験を通して、心身の調和のとれた心の豊かさを育てる。③合唱活動が普段の学校生活にも年間を通して活力を与える。④伝統である合唱祭を成功させる。このことによって、

①明るく前向きに学校生活が送れる生徒、②他と協力することによって得る喜び大切にできる生徒、③合唱をすることに感動できる生徒、の育成を目指している。

○一年間の活動例  
一年間の主な合唱活動を紹介する。

四月

- 入学式での二、三年生による歓迎の合唱を発表する。
- 入学式の翌日に、対面式に代わるものとして合唱集会を開催。二・三年生による学年合唱が一年生に披露される。

五月

- 三年生が新潟への修学旅行の際、最終日にお世話になった方々へ感謝の気持ちを込めた合唱を発表する。
- 一年生がいち早く校歌を覚えるために、校歌コンクールを実施する。

六月

- 一年生、二年生、三年生それぞれの保者会で、保護者の前で学年合唱を発表する。

七月

- 一年生の八ヶ岳自然教室の最終日、山荘の管理人さんに対し感謝の気持ちを表す合唱を発表する。

十月

- 総合学芸発表会において、二年、三年生の選択授業「音楽」を履修している生徒による合唱を発表する。

十一月

- 終業式の日には全校合唱集会を実施する。

一月

- 新入生保護者説明会で、その冒頭に一年生による学年合唱を発表する。

二月

- 全校合唱集会を実施する。

三月

- 新入生学校説明会で六年生に二年生が学年合唱を発表する。

四月

- 全校合唱集会を実施する。
- 第九小学校との合唱交流会。
- どりーむホールでの合唱祭。
- 午前中に特別支援学級を含め各クラス曲一曲を合唱する。コンクール形式をとっていないが、感情がこもった合唱となっている。

午後には、各学年による学年合唱が三曲ずつ披露される。ただ歌うだけではなく、曲の間に語りながら振り返る言葉とピアノやバイオリン等によるBGMを演奏している。

それぞれの学年の特徴が出て見ているものに感動を与える。特に三年生は、万感の思いがこみ上げ、涙を流しながらも懸命に歌う姿に感銘する保護者が多数いる。(昨年度と今年度は、調布市グリーンホールで実施)

- 卒業式での合唱。
- その他、ここ数年で米沢市からの修学旅行生との交流合唱、都立府中西高校合唱部との交流合唱、府中市成人式での合唱発表と、活躍の場を設定している。

○まとめ  
合唱活動の場を設定し、生徒に達成感や成就感を持たせ、学校生活における合唱の意義を自覚させていき、今後も保護者や地域の理解を得ながら本校の学校文化の中核として形成させていきたい。



全校合唱集会

合唱祭



わが校の特色ある教育 No.42

# 豊かな人間関係を育てる たてわり班活動

府中市立府中第六小学校

教諭 安永 美紀

本校の特色ある教育活動の一つに、『たてわり班活動』がある。一年生から六年生までを28の班に分け、学校生活の色々な場面に、異年齢集団での活動を意図的に取り入れている。六年生が各班の班長、副班長となり、様々な活動をリードし進めている。



ラララコンサート 予選

## 《たてわり班活動のねらい》

- ① 異学年の交流によって、連帯感や思いやりの心を育てる。
- ② 異学年交流の活動を通して、上級生の自覚や責任感、下級生の上級生を慕う気持ちを育てる。
- ③ 高学年児童のリーダー性を養う。

## 《主な活動》

- ① たてわり児童集会  
毎週金曜日に行われる児童集会で、たてわり班ごとの遊びや、

たてわり班対抗のゲーム集会等を取り入れている。たてわり班発足当初は、なかなかまとまって活動することが難しかったが、6月ぐらいいなくなってくると、高学年のまとめ方も上手になり、低学年から高学年の児童が、仲良く遊ぶ姿が多く見られた。

## ② ラララコンサート

二学期に実施。たてわり班ごとに曲を決め、練習をし、発表し合う。各班ごとに楽器を取り入れたり、振り付けを入れたり、たくさん

さんの工夫を取り入れ、自分たちの班にしか歌えない歌に仕上げようという意気込みで取り組んでいる。

コンサート当日は、朝から班の教室で過ごす特別な一日。午前中は、7チームごとに予選を行い、それ以外は歌の練習、室内や校庭での班遊び、勉強と、

班のみんなで楽しく過ごす。午後は、全児童が体育館で一堂に会し、見事予選を通過した4チームが優勝目指してステージで歌を披露する。

各班には様々な賞が与えられるため、どの班もひとつにまとまり、とても盛り上がりのある、六小恒例の行事である。

## ③ もちつき大会

三学期初めに実施。六小の子どもたちにとって最も楽しみな行事となっている。PTAやおやじの会の方々の協力もとで、日本の伝統的なイベントのひとつである『もちつき』を全児童が体験でき、そして、自分たちがついたおもちを、雑煮にして味わえるところ、最も人気の高い行事となっている。上級生と下級生がペアを組んでもちをつく姿は、何ともほのぼのとした光景である。

## ④ お別れたてわり班活動

3月に実施。一年間、活動を共にしてきた班とお別れの日。お世話になった六年生を、感謝の気持ちをもって送る会である。さらに、この会を中心になって計画・実行するのは、来年度六年生として六小を引っ張る五年生。「次は自分たちがリーダーとして頑張るんだ」という気持ちをもつためにも、大事なバトンタッチの行事となっている。送られる六年生の照れくさそうな顔、中心となる五年生の、ぎこちない中に見せる一生懸命な顔が印象的である。

学期ごとにたてわり班主体の大きな行事を取り入れることによって、その計画や準備を通して、高学年(特に六年生)のリー

ダー性が育ちつつある。さらに、一つ一つの行事を終える度に、自信や自尊感情も育ち、たくましく成長している様子が見られる。

今後も、たてわり班活動がより児童による主体的な活動となるように、意図的、計画的、継続的に実施していきたい。その結果、ねらいを達成し、子どもたちの中に豊かな人間関係が育っていくものと考えている。



ラララコンサート 決勝



3月研修会・委員会等予定	日	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	1	月	生活指導主任会	教育センター	月例報告、本年度のまとめ
	1	月	特別支援学級代表者会	教育センター	全体会、分科会
	2	火	学校評価委員会	教育センター	協議
	4	木	教務主任会	教育センター	研究発表会
	5	金	進路指導主任会	教育センター	本年度のまとめ
	9	火	初任者等研修	教育センター	閉講式
16	火	地域安全協議会全体会	教育センター	実践発表、グループ協議	



あと数日で、二十四節気の「啓蟄」である。大地が暖まり冬眠をしていた虫が穴から出てくるころである。また、冬の間、寒空にさらされた木々も芽吹き花が咲く季節でもある。「お花見」というと何の花を想像するだろうか。やはり私は「桜」である。古くは「古事記」「日本書紀」にも記述され、平安時代から和歌の世界では「花」といえば「桜」をさすようになったようである。なぜ「桜」はこうも人々の心を魅了するのであろうか。やはり近年では、「別れの季節」と「新年度への期待」に人々が自らの境遇を重ね、想いをめぐらせるからではないだろうか。

いよいよ卒業式も間近である。卒業式は学校行事の中でも特に重要な行事である。学校行事は「平素の学習活動の成果を総合的に発展させる実践の場である」と学習指導要領に示されて

## 「桜咲く季節」

いる。また、「学級活動などにおける指導との関連を図って」とも示されている。

卒業式そのものの進行等も重要であるが、卒業生の意識をいかに高めるかが重要である。毎年、卒業式に参列すると胸が熱くなる。なぜだろうか。来賓席に一礼していく子供たちの姿勢が本心に真剣そのもので、その表情から卒業する寂しさと同時に、4月からの新しい生活に夢と期待と少しの不安を感じるからであろう。

子供たちが意識を高めて卒業式に参加するためには、普段の学級活動での指導との関連が重要である。儀式的行事のねらいは「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと」である。すべての子供たちがねらいを踏まえた指導を受けた上で卒業式に参加できるようお願いしたい。

卒業式当日、暖かい日差しが卒業生を包み、周囲の温かい気持ちを受けながら、桜咲く校庭から健やかに巣立っていくことを期待している。

(指導主事 出町 桜一郎)

## 学びの窓

子どもたちが利用する文化センター 市民活動支援課是政文化センター 主任 市川 禎子

文化センターの行事は市の広報誌に掲載されている他に、各文化センター圏域の小学校へ児童館事業に関する情報誌を作成し配布している。児童館事業を心待ちにしている児童も多く、窓口で声をかけてくれるのが大変うれしい。

児童館では、定期的に特別工作や集団遊び、各種サークル活動を実施しているが、特にダンスや料理教室の人气が高い。

文化センターでは、各文化センター圏域にあるコミュニティ協議会の皆様のご協力をもって、児童を対象とした多くの行事が行われている。例えば、七夕の集いやクリスマス会の集い、ちびっこ交流会やいもほりの集いなどの行事が盛大に行われている。

是政文化センターでは、10月末に小学生を対象としたハロウィン仮装大会が開催され、1000名を超える児童が多彩な仮装をして地域を練り歩いている。高学年児童も笑顔でお菓子を受け取り、しっかりと御礼を言っている姿が微笑ましい。

児童館では、教職員をはじめとする学校関係者や地域の皆様

のご協力を得ながら、地域とのかかわりを通して体験や喜びを味わえる事業を今後も展開していきたい。

### あとがき

「指導室だより」の編集に携わり、1年を迎えた。文を書く、文章にまとめる等、表現すること、伝達することの難しさを改めて実感している▼ところで、酒や味噌や醤油の醸造には、極上の風味を醸し出すためのそれぞれに合った秘伝の仕込みがあり、熟成という知恵と工夫が施されている▼学校では、子どもたち一人一人の力を最大限に引き出し、個性という宝を磨くための経営が実践されている。今年度を振り返り、その成果と課題を次年度につなげたい▼教師には、自己の資質や授業力向上のための研さんが不可欠である。日々の忙しさに埋没せず、子どもたちのための良き教師を目指して学び続けることが肝要だ▼学校や教師の切磋琢磨は、子どもたちの学びを支え、生きる力をはぐくむ原動力となる。その一つである研究協力校の実践は、教育活動の充実を図る大切な研修の場であり、舞台である▼旅立ちの3月。思い出を胸に学舎を巣立つ子どもたち。その前途に幸多かれと祈る。

(小澤 宏)